

## 平成19年2月・5月開催の松本市立博物館市民ワークショップ

## 1 博物館に対する市民の意識

- ・好意的なもの = 博物館への直接的な関わりが良いイメージを与えている。
- ・負のイメージ = 「市民から遠い存在」「展示物に変化が無い」「観光地化しており市民から乖離している」

## 2 地域の人々が抱える問題

- ・地域コミュニティでの人間関係の希薄化
- ・街の活気がなくなっている。(中心市街地の空洞化、映画館や書店など文化娯楽の場が減少)
- ・伝統行事の担い手不足(少子高齢化)
- ・安定した職表に就けない・農家の後継者不足(雇用問題)
- ・子どもを外で遊ばせられない、高層マンションと景観、犯罪への憂慮

## 3 2に対して博物館ができること

- ・市民が対話でき、夢と希望を持てる場所。  
「みんなの集まれる場所」「人が気軽に寄ったり集まったりできる場所」「デートに使える」「市民の交流できる」「高齢者も楽しく過ごせる」「親子で遊びに行ける」
- ・個人史への関心  
「人の経験や生き様が宝物」「人々の生活そのものが展示品」

## 4 市民の日常生活における「松本城」

- ・思い出の場所
- ・誇り
- ・保存した先人の評価

## 5 松本の文化資源は何か、博物館で展示すべきものは何か

- ・負の歴史的記録・記憶
- ・土地の記録・記憶(地名、旧町名)
- ・人の記録・記憶
- ・「交通機関」「街道」「水源」「古民家、昔の建物」「暮らしと自然」「自然科学分野」「神社仏閣」「製糸関係資料」「芸者(観光地としての繁栄)」

## 6 新博物館で市民ができること

- ・ボランティアのように学芸業務を補助すること
- ・参加者自らの経験や技能を活かした活動に参加すること  
→市民が教育普及役として行う内容に関するもの  
博物館を自らの文化活動の拠点として位置づけて実施する活動内容に関するもの  
市民参加により企画運営として考えられる内容に関するもの